



## 平成28年度 糸賀一雄記念未来賞

### 牧野 賢一 神奈川県

特定非営利活動法人UCHI(うち) 理事長  
株式会社かかわ 代表取締役

1989-92年、神奈川県社会福祉協議会を経て1992-97年、社会福祉法人湘南福祉センター工房絵(知的障害者通所授産施設)勤務。1997-2014年、同グループホーム長を務める。2013年に株式会社かかわ、2014年に特定非営利活動法人UCHIを設立し現職。



上/『うち』には1〜3名のグループホームが13あり、結婚した夫婦に赤ちゃんが生まれた 下/東京大学「障害者のリアルに迫る」ゼミでは、これまで7名が自分史を発表した

大学卒業後、神奈川県社会福祉協議会を経て社会福祉法人の知的障害者通所授産施設に勤務。その施設から就労した人たちとの交流の中で、彼らがほっとできる仲間と場所の必要性を感じ、就労した人たちが参加する社会人サークルの活動を始めました。そして1997年にグループホームを設立し、2014年までグループホーム長を務めました。その後、2014年に仲間とともに特定非営利活動法人UCHI(うち)を設立し、理事長となり、グループホーム「うち」(共同生活援助事業)を運営しています。

社会福祉法人のグループホーム長時代から、地域社会の中で孤立する、社会的トラブルや精神的問題を抱える人、家族から虐待を受けて保護された人、罪に問われた人などを受け入れ、軽度知的障害、発達障害のある人のさまざまな「生きにくさ」に出会ってきました。

その人たちに共通する「相互関係」「社会関係」「自己決定」における障害を、「関係障害」としてとらえ、その人の「自己決定」を支援し、その人中心のつながりづくりを支える、「関係支援」によって解決していく活動を長く実践しています。

その活動では、人の一生を人類史になぞらえ、「安心・安定」「移動」「交流」「表現」「自己実現」の視点から彼らにとってのその人らしい暮らしを考え、「生きにくさ」を抱える人たちとのかかわりに奮闘しています。

また、「関係支援」の中では、「自分史作成支

援」にも取り組み、その「自分史」はこれまで、福祉関係者、教員、学生、地域住民などを前に障害のある彼ら自身が発表し、3年前からは東京大学のゼミにも彼らが講師として参加しています。

「罪に問われた障害者」「地域定着支援センター」「生活困窮者支援」「最貧困女子」などが近年注目されていますが、こうした言葉が無い時代から長く、制度では行き届かない軽度知的障害者、発達障害者の支援にかかわってきました。

※糸賀一雄記念未来賞：2015年度に「糸賀一雄記念しが未来賞」から改称。「滋賀県内での取り組み」に限っていた対象者を「国内での取り組み」に広げた。

現代福祉のフロンティア  
障害のある人、認知症の人、ひきこもり、居場所を見つけられない人たちが、豊かになったといわれる現代の社会においてもさまざまな障壁が依然として存在し、生きづらさを抱えている人たちがいます。糸賀やその仲間たちと同様に、そうした人たちに寄り添い、支え、声なき声を代弁し、その輝きを伝え、社会を変えていくとする実践者たちが今も活躍しています。04〜11ページで紹介した方々もまさにその実践者です。  
1996年に設立された公益財団法人糸賀一雄記念財団では、糸賀一雄氏の思想や取り組みを継承し、人材の発掘や育成をより進めるために、障害福祉分野で顕著な活躍をされている個人・団体に「糸賀一雄記念賞」を、障害福祉に関する取り組みのみならず、福祉・教育・医療・労働・経済・文化・スポーツなどの分野における障害者または障害者と同様に社会的障壁による生きづらさを抱えた人に関する先進的な取り組みに「糸賀一雄記念未来賞(※)」を授与しています。糸賀思想を受け継ぐ現代福祉の実践者として、これまでの糸賀一雄記念賞や未来賞の受賞者(一部)を紹介します。



今の世にも私の同志がたくさんいらっしゃる、とても嬉しく思います。それぞれの実践にとどまらず、後進の育成に力を注ぎ、さらに次の世代へバトンをつないでいただきたいですね。

※21〜25ページの過去の受賞者紹介における所属・肩書きは受賞当時。